

クラウドサービス「Notion」を活用した、蜃気楼データベースの制作

技術士(電気電子部門) 内生蔵祐一

1.はじめに

近年、クラウド上に保存したデータを活用するSaaS(Software as a service)アプリケーションが増加している。

蜃気楼の写真や過去の出現記録等をデータベース化し、様々な条件で検索できるツールがあれば、閲覧性の向上や、問合せ対応の的確化が期待できる。

メモやデータベースを簡単に作れることから人気が高まっているSaaSのひとつとして、「Notion」がある。筆者の写真コレクションと、魚津埋没林博物館の出現記録を連携させ、様々な切り口で蜃気楼の写真を見比べることができるデータベースを制作したので、その概要を紹介する。

2.Notionとは

2014年、米サンフランシスコで設立された「Notion Labs inc.」が提供しているSaaSのひとつ。2016年にリリースされ、2022年に日本語化された。

コンセプトは「あらゆるデータをひとつにまとめ、豊かで充実した人生を送ろう」であるが、実態は「デザイン性に優れた柔軟かつ高度なブロックエディタ」+「高機能なリレーショナルデータベース」ともいえる。(この論文もNotionで制作)

2024年8月、全世界における利用者が1億人を突破、AIによるサポートやデータベースのグラフ化機能も追加され、今もなお機能追加が行われている。

法人利用の場合は有償だが、個人利用の場合は無償である。(但し、制作できるグラフ数や添付ファイル容量等、一部の機能に制限がある)

3.データベースの概要

(1)データベースの構成

- ①「Mirage Data」…魚津埋没林博物館ホームページにある「蜃気楼:過去の出現記録」を参照した。各年ごとに発生番号があるため、年と発生番号を組み合わせた命名規則を設けた。

例…2024年の11番目に発生した蜃気楼は「M202411」(M…Mirageの頭文字)

- ②「Mirage Photo」…筆者が撮影した写真、①と相互リンクしている。
- ③「Mirage Object」…対岸に見える建造物のデータベース
- ④「Mirage Link」…YouTubeライブカメラや気象情報等のリンク集

これらのコンテンツは、インターネット接続環境およびブラウザがあれば、様々な端末で閲覧することができる。

(2)データベースへのリンク(2026.5現在)

<https://dandy-slicer-164.notion.site/Mirage-16d77add12f0426b85d2cdf7e1e3d145>



4.効果と課題

(1)効果

過去の蜃気楼出現記録と一緒に、写真も確認できるので、観光客の方からよく聞かれる「Aランクを他のランクと比べるとどのくらい凄いのか」、「先日発生した蜃気楼ってどんな感じ?」という質問に対し、ランク別やカレンダービューにより、Webブラウザで即座に答えることができる。

過去の出現記録を、積み上げグラフやカレンダー等、様々なビューで見ることができ、写真との組み合わせにより、多方面からの考察が容易に行える。

(2)課題

高機能であるがゆえに、検索条件を増やすと動作が遅くなることもあるが、日々バージョンアップされており、更なる機能向上に期待したい。